



柴田町立船迫中学校

学校だより 第8号

平成29年8月28日

そっ たく
啐 啄

啐は殻の中で雛が突つく音
啄は母鶏が殻を噛み破ること。
またと得難い良い時期を意味する。



二学期が始まりました

長い夏休みも終わり、本日から二学期が始まりました。始業式では久しぶりに全校生徒が集まり、校長先生の式辞の後には、各学年、生徒会代表の生徒から、学習や部活動、進路実現に向けてなど、二学期の抱負や目標を具体的に述べました。

この夏休みは県中総体、三者面談・家庭訪問、地区吹奏楽コンクール、駅伝練習、部活動、夏休みの学習会と充実した夏休みを過ごしたと思います。

二学期は、学習はもちろん学校行事（迫中祭、合唱コンクール、30周年記念式典）や新人戦も行われ、全校生徒の活躍が期待されます。教職員と全校生徒が一丸となり、取り組んで行きたいと思います。

校長式辞より

皆さんおはようございます。この夏休みは雨が続き、部活動や駅伝、お盆の行事など思うような活動ができなかった人もいたのではないのでしょうか。しかし、ソフトボール部、卓球部、バドミントン部、陸上部、水泳部など総勢44名の皆さんは、郡の代表として県大会に出場し、雨や猛暑の中でも精一杯自分の力を発揮し、活躍してくれました。特に1年生の幕田さんは100m競走で東北大会に出場するなど、素晴らしい活躍ぶりでした。

さて、今年の夏休みは宮城県の高校生にとって大変、思い出に残る夏休みとなりました。それは高校のスポーツ全国大会、インターハイが南東北、山形県、宮城県、福島県で行われたことです。特に柴田町では地元、柴田高校が開催県代表として水球競技に出場しました。大会当日は多くの応援団の声援の中、全力でボールを追いかけ、ゴールに向かって必死に泳ぎ、躍動する姿をみました。シュートを決めたときの選手の自信に満ちた表情、その瞬間の会場の盛り上がり。まさに、選手と応援団が一体となって輝いている瞬間でした。また、宮城県では高校生の文化部の全国大会、全国総合文化祭、通称総文祭も開催されました。私は開催県代表として名取北高校演劇部の東日本大震災にかかわる演劇を見てきました。会場のイズミティ21大ホールには満員の約1,450名の観客が高校生の迫力ある、心に迫る、演劇に感動し、涙を流す方々もいました。当然、ステージで発表している高校生は輝いていましたが、私がさらに感動したことはこの総文祭を支える高校生スタッフの素晴らしさです。多くの観客が見に来る中、高校生たちは明るい笑顔で観客を迎え、てきぱきとした態度で私たちに誘導してくれました。あの清々しい態度、接客は会場を訪れた方々を幸せな気持ちにしてくれました。この夏、宮城県の高校生の2つの大イベント、インターハイ、総文祭を見学し、光輝く高校生の姿に感動しました。

あの高校生の輝きはどこからくるのでしょうか。それは、彼ら一人一人が自分の役割を自覚し、自分が所属するチームを愛し、ひたむきに努力した結果ではないかと思えます。チームの勝利のため、観客に感動を与えるために高校生はそれぞれの立場で自分に何ができるか考え、日々一生懸命活動してきたからです。そのような一人一人の力がチームにとって掛け替えのない存在となり、周りからも認められることによって、それが自分の自信となり、さらに努力し続けることができ、チームとしてより大きな力となって光輝いたのです。

今日から始まる2学期。駅伝大会、新人大会、迫中祭、合唱コンクール、そして11月18日に行われる本校創立30周年記念式典。皆さん一人一人が自分の学級、学年、船迫中学校にとって大変大切な存在であることを自覚し、学級、学校のために何ができるか真剣に考え、努力して欲しいと思います。皆さん一人一人の意識、行動、努力が学級を学校を光り輝くものとします。特に創立30周年記念式典には多くの地域の方々やこれまで本校を支えて下さった方々が見られます。皆さんがひたむきに一生懸命努力することによって、光輝いている姿を当日、多くの方々にお見せしましょう。そして、会場にいる皆で本校の創立30周年を祝いたいと思います。今年の2学期は今まで以上に皆さんで力を合わせ、素晴らしい行事を創り上げていきましょう。船迫中学校チームには皆さん一人一人の意識が大切です。

